

○安保国会に本格稼働、平和国家堅持

国会ではいよいよ、安全保障にかかわる法案の改正案が政府より提出されます。私は、憲法の基本である平和国家の理想はどこまでも守り抜くことだと覚悟を固めています。

大事な原則は3つ。第一に、日本に実際の武力攻撃が行われた時にそれを排除することに限定して自衛隊の武力行使を認め、それ以外はだめだという「専守防衛」の原則が守られた上での改正であるかどうか。第二に、国際的な平和構築に貢献するためには、自衛隊も積極的に出かけて活動をしていくこととする。しかし、海外派遣するときには、武力行使を前提にするような派遣や武力と一体化する可能性のある派遣はしない。第三に、国際情勢の中で、これまでに想定されてこなかった状況が生まれ、新しい対応が必要なこともあり、個別具体的な議論の上で結論を出すべき。私は、こうした規範に基づいて今回出されてくる法案に向き合っていきます。

法案より先に合意され、安倍総理が今回の訪米で、日本はここまでやると言い切ってきた日米安保のガイドライン(条約の実際の運用基準)の見直しでは、前の3原則を飛び越えた中身になっていると言わざるを得ません。日本の周辺で日本を守るためだけでなく、アメリカには、どこまでもついて行ってアメリカやその他の同盟国(オーストラリア等)の船舶などが攻撃された時には、それを守るために一緒に戦うとされています。戦闘中の海域の機雷の除去なども含まれています。ミサイルなどの防衛も、どちらに攻撃されそうなものであっても一緒に対応しようということにも言及しています。

私が出席をしたワシントンでの日、米、韓三カ国の国会議員の意見交換会でも、この話題が取り上げられました。韓国の議員からは、「中国を封じ込める意図が前面に出ている今回の日米の対応は、だから中国も対抗して自分の軍事的な拡張を図るのだという言い訳に使われる可能性があり、アジアの軍事的な緊張を増す。」という指摘がありました。一方、今回の安倍総理の訪米中の積極的な表明もあり、アメリカの国防総省を中心とした関係者は、「これから日本はなんでもしてくれる」と、大きな期待をもって日本の動きを見つめています。特に、財政の不均衡を是正する必要のあるアメリカでは、国防予算を減らそうという議会の強い圧力のもとで、日本がそれを肩代わりしてくれることは、ありがたいという本音も聞かれます。

アメリカの安全保障専門家からは、アメリカの大きすぎる期待と安倍総理の大風呂敷に懸念する声も出ました。

○主権者教育を学校現場で

選挙の投票年齢が18歳に引き下げられます。高校3年生の一部が対象に入ってきます。民主党の文部科学関係の部会でも「学校での主権者教育の在り方」について、私が座長となり、これまでの文科省の政策を見直し、あるべき形を提示することになりました。

60年から70年代に安保闘争に端を発して学園紛争が激化しました。当時、文部省は、「学校で政治に触れることはご法度だ。」と受け取れるような強い通達を出して現場を指導しています。そのような経緯から、現場では、現実の政治を題材にして教室で主権者教育に取り組むことにすっかり腰が引けてきたのだと思います。若い人たちの投票率が20%台と極端に低いと指摘される中、もう一度原点に戻れば、学校こそ、民主主義の担い手を育てる役割を求められているのです。この「学校民主主義」を実践するために、どのようなルールと仕組みを作れば、現場は積極的な取り組みができるのか、まとめていきます。

○統一自治体選挙、勝利で一段落

県・市議会議員選挙では、鈴鹿も四日市もお陰様で、多くの仲間が当選してくれました。松阪も頑張って、県議会に将来が期待される女性議員が一人増えました。全国的に民主党系が苦戦する中、三重県は県議会が第一会派に返り咲くなど、堅調な力を発揮しました。当選した仲間と、地方の活力をどのように作り出していくのか、大きな課題に向けて一緒に取り組んでいけることが楽しみです。選挙をしっかりと支えていただいた皆さんには、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

○甘酸っぱい青春、母校ジョージタウン

ワシントンに来て、久しぶりに、母校のジョージタウン大学を訪れました。フランスのコロニアル風のタウンハウスの中にある瀟洒な教会の屋根裏部屋。私が青春時代を過ごした下宿先も昔のまま。毎夜、必死になって課題に取り組んだ図書館の机、週末に友人たちと騒いだパブ。40年の歳月が流れても、そこに昔と変わらない学生達の生活を垣間見て、春の日差しの中で懐かしく甘酸っぱい思い出に浸り、しばし珠玉の時を過ごすことが出来ました。